

レガシーから「頑張れ」

ボート八尾、立田選手にエール

所属する2人が東京パラリンピックにボート日本代表として出場する戸田中央総合病院RC(ローイングクラブ)＝本部・戸田市。27日から始まる予選を前に、クラブの仲間たちが、ホームグラウンドで1964年東京五輪のレガシー(遺産)でもある戸田漕艇場の水辺から「先輩、頑張れ」「ファイト」とエールを送った。＝1面参照

(岸鉄夫)

東京パラ

Tokyo 2020

出場するのは、八尾陽夏選手(24)と立田寛之選手(29)。漕(そ)手4人に舵(か)手を懸けている。漕艇場の埼玉県艇庫前の水辺にそろった戸田中央総合病院RCのメンバーの1人、日

大ボート部で立田選手の1学年上だった小林雅人さん(30)は同病院本部で働く事務職員。「大学の3年間、この戸田漕艇場で立田君と一緒に暮らした。彼は学生時代は楽しんでいたが、社会人になつてからいろいろ考えている。自分の考えを持った選手になった。今度はパラ五輪の大舞台。悔いのないように戦つてほしい」

漕手はほかに、米国出身の視覚障害の会社員で杏林大医学部の有安諒平選手(34)、同じく視覚障害で東京都出身の東京都立文京高等学校の木村由選手(17)、広島市出身で身体障害の会社員西岡利拡選手(49)ら。

八尾選手を含め漕手4人に声を掛け、力をまとめるのが

花穂さん(28)は「八尾さんはコロナ禍でも元気を振りまいてくれる人。八尾ちゃんスマイルでファイト」とエールを送った。

戸田中央総合病院ローイングクラブ

八尾陽夏、立田寛之選手らにエールを送る戸田中央病院RCの選手たち＝戸田市の戸田漕艇場



戸田中央総合病院ローイングクラブ